

ふる～ぶ

吉野川ファン通信



「ふる～ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。

VOL.85

2007/3



1 page [特集] 吉野川アラカルト

早春の吉野川で野鳥観察 ～バードウォッチングの楽しみ方～

美しい声、可愛い姿で、心をなごませてくれる野鳥。
今回は、河川環境溪流アドバイザーの
小林寛先生とともに、吉野川へ出かけました。

3 page 吉野川いまむかし 高瀬渡し編

4 page ふる～ぶ編集部がおじゃましま～す! 美馬市 重清東小学校 チャレンジ米づくり

5 page ふる～ぶめいと通信 奥祖谷観光周遊モノレール 吉野川企画展を見て

6 page Ra♪Ra♪Ra♪エッセイ スプラウトを作ってみましょう。

ふる～ぶ INFORMATION
失われた交通路
吉野川の「渡し」の再発見!!

7 page よりよい吉野川づくり<第22回> 吉野川水系河川整備計画【修正素案】について、 ご意見を伺っています。

ふる～ぶひろ～ば
編集後記・今月の表紙イラスト・プレゼント



早春の吉野川で野鳥観察

～バードウォッチングの楽しみ方～

寒さが少しずつやわらぎ、吉野川の堤防も少しずつ春の気配。

吉野川をフィールドに出かけてみるのも、楽しい季節になりました。

吉野川には、さまざまな楽しみがありますが、そのひとつが野鳥観察。

2006年の日本野鳥の会(徳島県支部)調べによると、徳島県内では、346種類の鳥が確認され、日本全国では、およそ700種ぐらいの野鳥が観察されています。

また、国土交通省徳島河川国道事務所が実施した河川水辺の国勢調査、

平成14年度 生物調査結果概要によると、吉野川、旧吉野川、

今切川の調査では、110種類の鳥類が確認されています。

その美しい声や、可愛い姿が、私たちの心をなごませてくれる野鳥。

吉野川、旧吉野川には、どんな野鳥がいるのでしょうか？

今回は、小林實先生とともに、吉野川へ出かけました。



★ボラを捕まえて、飛び立つミサゴ。

講師 小林 實先生



今回、講師をつとめてくださった小林實先生。
アースカラーのベストのポケットには、野鳥図鑑や、
野鳥を数えるためのカウンターをいれる。
定番のスタイルだ。

◎プロフィール

- ◆1932年香川県に生まれる。
- ◆香川大学卒業後、徳島県内の各中学校で勤務後、1980年徳島県教育委員会に入る。
- ◆1988年徳島市教育委員会に入り、社会教育課長、教育次長、教育長等歴任。
- ◆毎日新聞に、「阿波の野鳥」を1973年より、6年間、128回連載する。
- ◆文部大臣表彰(1992、1999)、徳島新聞社賞(教育賞1977)など、受賞、表彰多数。
- ◆日本野鳥の会創始者である故中西悟堂先生に師事。
- ◆現在、国土交通省徳島河川国道事務所で、河川環境溪流アドバイザーをつとめる。



野鳥観察の前に、ポイントを小林先生に伺いました。

Q 野鳥を観察する時は、どのようなことに注意したらいいですか？

.....

A いろいろとありますが、私たち人間が、鳥の生活をちょっぴりのぞかせていただく。そんな優しい気持ちが必要ですね。そのポイントは、

- ①まず、鳥を驚かさないことです。鳥の行動や様子を観察するには、できるだけ近づいたほうがいいのですが、観察する人間に気づくと、鳥が意識して、いつもとは違う行動をとってしまいます。
- ②観察したことは、忘れたり、記憶があまりにないうちに、すぐに記録しましょう。
- ③鳥の巣や、卵には、触れたり、近づいたりするのはやめましょう。



今回、先生と出かけたのは、吉野川河口干潟。この河口干潟は、何千キロもの旅をする鳥たちの貴重な中継地。羽を休めたり、えさをとったりするオアシスです。干潟に上陸した瞬間、

Q 野鳥を観察する時、必要なものはなんですか？また、服装は、どのような状態でいったらいいですか？

.....

A ●双眼鏡 倍率7～8倍のものを選びましょう。

●望遠鏡(フィールドスコープ) 倍率20倍以上のものがありません。三脚につけて使用しましょう。

●観察を記録するためのノート。

●服装についても、あまり難しく考える必要はないのですが、あまり鳥たちの暮らしにないような派手すぎるものは、やめましょう。

また、ある程度汚れてもいいような服装、靴でいきましょう。

岸辺で羽を休めている多くの鳥、群舞する鳥、えさをついばんでいる鳥たちなど多くの鳥たちを見ることができました。まさに、野鳥の生活する場に足を一步踏み入れたよう。

Q 先生、多くの鳥たちがいますね。実際に、どのように、鳥を見分けるのですか？遠く離れたところにいると、よく似た鳥もいますね。

A まず、鳥の大きさですね。離れたところにいる鳥をものさしや、メジャーではかることは、できませんから、基準となる鳥の形を知って

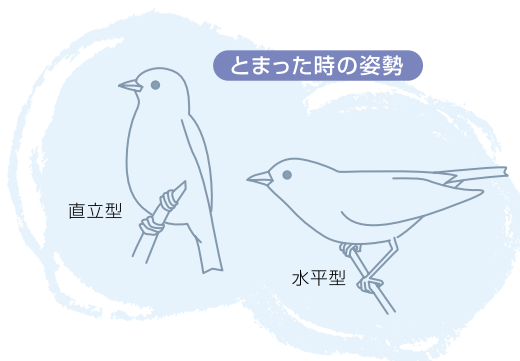


群舞するカワウ。最近の急激な繁殖が話題となっている。小林先生によれば、一羽が、一日20匹から30匹の魚を食べるため漁業関係者の頭を悩ませている鳥だ。

おき、それより大きいのか、小さいかを知っておくといいですね。スズメ、ヒヨドリ、キジバトなどを参考にするといいですね。

ほかには、飛び姿が直線的なのか、高低のある波形に飛ぶか、歩き方がチョコチョコと細かく歩くのか、ピョンピョンと跳ねるように歩くのか、とまった姿勢が直立か、また、羽や尾のかたち、色、模様などですね。そして、もちろん、泣

き声も重要なポイントです。最初から、どれがどの鳥というのを見分けるのは、難しいと思いますので、鳥の特徴を記録しておき、後から、詳しい人や、図鑑などで、調べるのがいいでしょうね。なお、日本野鳥の会 徳島県支部では、毎月第3日曜の10時頃から、吉野川河口の水門付近でバードウォッチングをしていますので、気軽に参加してください。



Q 先生、この河口干潟には、本当にいろいろな鳥がいますね。どのように分けられるのですか？

A 今日見ることでできたカラスや、スズメなどは、留鳥(りゅうちょう)といえます。年間を通じて、同じ場所において、季節による移動をしない鳥のことです。また、渡り鳥では、春になると、東南アジアなどから、日本に渡ってきて、夏の間、産卵繁殖活動を行い、寒くな

ると、かえっていくのが、夏鳥です。代表的なものにツバメがあります。

反対に、冬になるとロシアなどからきて越冬し、夏が来る前に、産卵繁殖のため、北へかえっていくのが冬鳥です。カルガモ、マガモなどですね。そして、シベリアなど日本以北で、産卵繁殖して温かい東南アジアで越冬するため、春と秋に、日本を通過点とする鳥が旅鳥です。

シギ、チドリなどがあります。



★ヤマトオサガニを捕食するホウロクシギ。

干潟で泳ぐマガモたち。首の毛がピロードのような美しい緑色なのは、オス。通称アオクビといわれる。一方、卵を抱くメスは、外敵から身を守るために、地味な姿となっている。



★アナジャコを捕食するダイゼン。



今回の河口取材で見られた鳥

(1時間ほどの間、平成19年1月11日取材)

- ヒバリ
- カワウ
- ダイゼン
- ユリカモメ
- ハシボソガラス
- ハマシギ
- コミミズク
- ハクセキレイ
- セグロカモメ
- ハジボトガラス
- アオジ
- カルガモ
- マガモ
- スズメ
- ミサゴ
- ヒヨドリ
- ハヤブサ
- トビ
- アオサギ
- キジバト
- ヒドリカモ

◆先生 今日、野鳥の生活をのぞいてみて、どうでしたか？

◆編集部 ひさしぶりの野鳥観察なのでとても楽しかったです。優雅に見える鳥たちですが、旅鳥などは、ここでオーストラリアまで何千キロにもおよぶ壮絶な旅に備えて、力を蓄えているんですね。

◆先生 野鳥たちは、自然が残してくれた文化財なので、大切にしたいですね。そのために私たちは、自然に親しみ、自然に学び、自然を大切にしなければなりません。人間も、鳥もお互いが共生できるような、そんな暮らしが出来るようになればいいですね。

※今回の写真は、すべて吉野川河口干潟で見られる鳥。
★印の写真3点はニタコンサルタント株式会社提供。

吉野川 いま むかし

このコーナーでは、吉野川の
今と昔の写真を見ることによって、
ふるき時代をみつめ、
未来の吉野川を創造します。

高瀬渡し編

高瀬渡しは、上板町高瀬と、石井町藍畑地区を結ぶ渡しでした。
江戸時代には、藩主が領地内を見回る巡見の際、左岸にある大山に登る巡見路として賑わい、
明治時代には高瀬の浜として、多くの人々が行き交い、賑わいました。
大正末期に、石井町西覚円の正木氏が賃取り橋を作り、橋は、大人2銭、子供1銭、
高瀬地区の人には、期限付の優待通行券を発行したということです。
賃取り橋が、洪水で流出されると、渡しは復活、戦後は、県営の渡しとなりました。
昭和二年、高瀬潜水橋の完成で、渡しは廃止となりました。
今回は、高瀬の渡しで年代を変えて撮影された、いわば定点観察写真。
どちらの写真も渡しの船の上で撮影されたものです。

(参考：国土交通省発行 吉野川の渡しガイドブック ※監修吉野川渡し研究会)



左の写真は、昭和10年頃の写真。写っている4人とも、親族だそうです。
勝重さんもまだ書生さんのような雰囲気。頭には、学生帽。
船頭の伊藤さんも、半纏姿です。



次に、昭和20年代の右の写真。これは、渡しの船頭さんの集合写真。
5人も船頭さんがいたということから、多くの船がでていたことが想像されます。
勝重さんの船頭姿も、すっかり板についています。
勝重さんは、戦争に行き帰ってきた後、
給料のいい船頭の仕事をしていたということです。

昔



濱野勝重さん
(岡山県在住 92歳)

伊藤傳蔵さん

※昔の写真については、写真に写っている伊藤傳蔵さんの長女、
伊藤くに子さん所有。

昔



今



今、渡し場があった付近には、
潜水橋がかかっています。

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!

重清東 小学校 の巻

美馬市には、静寂な雰囲気豊かな、多くの寺が立ち並び寺町や、約1200年前の白鳳期に建設された寺院跡である『郡里廃寺跡』などがあり、昔から文化の香り高い場所です。この重清東小学校では、5年生を中心として、長年にわたって米づくりに取り組んできました。

作物の成長とともに、心を成長させる。そんな思いを込めて名づけられたといわれている^{しよくしんでん}植心田。お米づくりは、昨年、新学期と同時にスタート。4月と5月は、収穫までの計画を立てたり、育苗センターを見学したりして、田植えに備えてきました。6月は、待ちにまった田植え。教室で、子どもたちに聞いてみると、「しんどかった〜」という声が多くありました。機械ではなく、手作業の田植えでは、たんぼの泥の中に足がうまってしまい、なかなか抜けないことが思い出に残っているそうです。その後、夏には、米ぬかを発酵して作った肥料、米ぬかぼかしをたんぼにまいたり、全校でかかしコンクールをし、たんぼに立てたり、観察を続けながら、秋には無事収穫を迎えたのです。こどもたちの「収穫したときは、本当によかったです」とのことば。飾り気のないことばですが、素直にいろいろな思いが込められているようで、しみじみと心に染み入りました。



「町の中央を吉野川が流れる美馬市。チャレンジ米づくり。地域の方が結束したもちつき大会。」



6月に行われた手作業での田植え。

12月10日は、目標であった東校ふれ合いもちつき大会。小学生84名、幼稚園児34名、保護者や地域の方々合わせて、約250人が集まりました。もちつきはもちろんのこと、地域の方々を招いてお正月にかざる餅花づくりや、わらを使ってのリース作りを体験しました。「このもちつき大会で保護者の方、地域の方々との結束が強まりました」と山田京子校長先生。「幼稚園の小さい子を見てあげ



たり、自分のおじいちゃん、おばあちゃんでない地域の方々にはわら細工を教えていただいたり、いろいろな世代とかかわりあったことは、子どもたちにとって、とてもいい経験になったのではないのでしょうか」と5年生担任の富田敬子先生。また、「直接の影響があったかどうか分かりませんが、子どもたちが、給食を残すことがなくなりました」とも、教えてくださいました。食の細い児童の分は、ほかの児童に前もって、とり分けているそうです。きっと、お米を育てたことによって食べ物の大切さというものを実感したのでしょう。

2月に行われた学習発表会で、5年生でのお米づくりの学習も終了。黄金色に実る稲穂のように、子どもたちにとっても、実り多い学習だったようです。

吉野川ミニ辞典

き 旧吉野川 きゅうのしのがわ 旧吉野川は、板野郡上板町佐藤塚で、吉野川から分岐して、途中で、宮川内谷川、大谷川などと合流して鳴門市南部で紀伊水道にそそいでいます。長さは、24.8km。流域面積約250km²。

この旧吉野川は、もともと吉野川の本流でした。そして、今の第十堰より下流側には、別宮川が流れていました。一説によると、寛文12年(1672)第四代徳島藩主の蜂須賀綱通が、徳島城のお堀に導水の便をはかるため、旧吉野川と、別宮川を最短コースで

つなぐ水路を開いたところ、水のほとんどが別宮川に流れこみ、旧吉野川は水不足となったといわれています。その後、明治40年(1907)から昭和2年(1927)にかけて(施工準備期間も含む)行われた吉野川第一期改修工事によって、別宮川が吉野川の本流となり、吉野川の河道は、ほぼ現在の姿となりました。





「ふる〜ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと レポート

奥祖谷観光周遊モノレール

上板町 久米 葉子さん

奥祖谷モノレールに乗ってきました。世界最長4,600mのコースを約1時間10分かけて、ゆっくと森林浴を楽しむことができます。最頂標高は、1,380mで高低差や最大傾斜度なども世界一なんだそうです。

モノレールは2人乗りで、カラフルなカブトムシのデザインです。植物ガイドがもらえ、モノレー



ルの周遊コースで植物を見られる順に紹介してくれているので、木々の特徴を知ることができます。頂上近くには、四国では三嶺だけという、マメシジミの生息地があります。時には鹿やリスなどに

逢えることもあるそうです。すがすがしい森の空気に触れることができ、爽やかな気分になりました。

場所は「いやしの温泉郷」と同じです。

<http://www.city-miyoshi.jp/>

めいと レポート

吉野川企画展を見て

つるぎ町 大塩 邦光さん

香川用水記念公園の「吉野川企画展」を見学しました。記念館のエントランスホールでは、3階までの吹き抜けに稲わらで作られた巨大な昇り竜と降り竜があり、吉野川から送られてくる噴き出し口の水に喜びの舞を踊っているようでした。

特別展示室では、吉野川の昔を語る展示があり、洪水の歴史がリアルに展示されていました。ふだんは母なる川も洪水時は暴れ川となるため、数々の自衛策を

講じた写真が展示され、流域住民の苦勞を知ることができました。パンフレットには3万人余りの命がうばわれた「寅の水」(1866年)が写真とともに掲載されています。

この企画展は香川県人だけでなく、ここを訪れた人々は阿讃山脈を抜けて香川県にもたらされる命の水に感謝したことと思います。

ハーブ農園 からの風

このコーナーでは、「ふる～ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

スプラウトを 作ってみましょう。

いよいよ三月です。本格的なガーデニングの前に、タネをまいたら水をやるだけ!!室内で簡単にできるスプラウト(新芽)作りにチャレンジしてみませんか。

用意するものは、栽培セットとコーヒーマップのみ。15度以上の室内で、10日もあれば栽培できるというものです。

カイワレ大根でおなじみのスプラウトですが、最近では、

ピンクカイワレ◆茎

がきれいなピンク

色のカイワレ大根(イタリア原産)

レッドカイワレ◆健康に良いポリフェノールがいっぱいの赤

いカイワレ大根(イタリア原産)

ピンクケール◆ピンク色のきれいな栄養たっぷりのケールで、

サラダの彩りなどに重宝(イタリア原産)

レッドキャベツ◆ビタミンを多量に含み、彩り鮮やかなスプラウト(イタリア原産)

アルファルファ◆ビタミンA・K・B6を豊富に含み、ダイエツト食品として注目を集めサラダなどにするとおいしい(イタリア



原産

ルッコラ◆ビタミン豊富で胡麻風味が香ばしくておいしい(イタリア原産)

ブロッコリー◆スルフォラファン・ビタミン・ミネラル・葉酸が豊富(イタリア原産)

ダッタンそば◆ルチン・ケルセチンを多量に含み、血液さらさら効果(中国原産)

マスタード◆ピリツとした刺激が持ち味のビタミン・ミネラルが豊富(日本原産)

これらが栽培セットとして市販されています。

作り方は簡単で、栽培セットの水栽石をカップの中に1cm

強の厚さに敷き、水を水栽石より少し多

めに入れ、その上にタネをばらまきにし、ダンボール箱に入れて水を切らさないようにして一週間暗くして育てます。中身がカップよりはみ出した頃、箱から出して一日直射日光に当てて出来上がりです。

ご家族でお楽しみください。

【黒川慶子さん経歴】

ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も務める。
徳島県薬草協会会員
上板町薬草協会会員

ふる～ぶ

INFORMATION

失われた交通路 吉野川の「渡し」の再発見!!



設置年度(標柱)

◆設置箇所一覧

設置年度(標柱)

徳島河川国道事務所及び吉野川流域市町では、吉野川と旧吉野川の川岸に、吉野川渡しの説明板および標柱の設置にとりかかっています。

橋や鉄道がない時代、川の兩岸を結ぶ「渡し」は、交通路としての役割を果たし、徳島県内には117ヵ所の「渡し場」がありました(このうち長原渡しは現存)。この中の、流域の人々が訪れ河川の利用が行われている24ヵ所の渡し場跡に、平成17年度から標柱が設置されています。平成19年2月に新しく説明板が大具渡し、江口渡し、喜来渡し、名田の渡し、大寺渡しに施工されます。

みなさん是非、近くを通る時には、ごらんになってください。

白地渡し(三好市池田町)

H19以降

敷ノ上渡し(三好市池田町)

H19以降

大具渡し(三好市池田町)

H17

辻渡し(三好市井川町・東みよし町)

H17

角浦渡し(三好市三野町・東みよし町)

H18

江口渡し(三好市三野町・東みよし町)

H17

青石渡し(美馬市美馬町)

H18

喜来渡し(美馬市美馬町・つるぎ町貞光)

H17

小島渡し(美馬市脇町・美馬市穴吹町)

H19以降

舞中島渡し(美馬市脇町)

H18

穴吹渡し(美馬市脇町・美馬市穴吹町)

H17

岩津渡し(阿波市阿波町)

H19以降

八幡渡し(吉野川市川島町)※H15

大野島渡し(阿波市市場町)

H19以降

源太渡し(阿波市吉野町・吉野市鴨島町)

H18

名田の渡し(藍住町・徳島市)

H17

隅瀬渡し(徳島市)

H17

古川舟渡し(徳島市)

H18

鈴江の渡し(徳島市)

H19以降

大寺渡し(板野町)

H17

牛屋島渡し(鳴門市)

H18

広島渡し(松茂町)

H18

鯛浜渡し(北島町)

H19以降

加賀須野渡し(徳島市)

H19以降

※今回の計画以前に設置されていた箇所

問い合わせ先: 徳島河川国道事務所地域連携課 TEL (088) 654-9175

吉野川水系河川整備計画【修正素案】について、ご意見を伺っています。

第2回 吉野川流域住民の意見を聴く会

吉野川流域住民の意見を聴く会『下流域』が、1月20日(土)、吉野川市鴨島町の吉野川市文化研修センターで開催されました。当日は、26名が参加しました。参加されている方は、自分たちの命や暮らしに直結する吉野川水系河川整備計画についての関心が高く、内水対策や、河川の維持管理など、予定時間を1時間延長しての会となりました。

会では、「修正素案に善入寺島の存在価値について、充分に記されていない」「森林保全の取り組みについて、土砂流出防止機能のことだけでなく、森林治水のことについても、もう一步踏み込んで表記してもらいたい」「内水被害について、取り組みが不十分」などさまざまな意見がありました。

また「この住民の意見を聴く会に、上流、下流と参加させていただいています。上流から下流、すべての人が満足する答えはでないと思いますが、できる限り意見を充分に反映してほしいです」とのご意見もありました。

今回の会場には、「新聞の折り込みチラシでこんな会があることを初めて知った」という主婦の方も、堤防の整備についての質問をしていました。せっかく吉野川の川づくりに参加できる機会です。皆さんも、ぜひ会場に足を運んでみませんか？



河川空間の利用については、吉野川の風物詩ともいえる竹林について、現在の手入れできていない状況をあげ、「竹やぶの中へ入りにくい。入れるように伐採して、すき間を空けるとか地域の人にできるだけ利用してもらえるように開放していくのがいいのでは」「子どもたちにとって、川が遠くなっている。可能な限り、いろいろなところで川に近づけるようにしてほしい」などのご意見もありました。



今回の取材以外では、下記の会場で開催されました

- 平成19年1月21日(日)…徳島県建設センター(下流域)
- 平成19年1月27日(土)…三好市中央公民館(中流域)
- 平成19年2月3日(土)…JA会館「1月21日の追加開催」(下流域)
- 平成19年2月4日(日)…北島町公民館(下流域)
- 平成19年2月10日(土)…大豊町総合ふれあいセンター(上流域/高知県会場)
- 平成19年2月11日(日)…霧の森 交湯〜館(上流域/愛媛県会場)

吉野川流域市町村長の意見を聴く会

- 平成19年1月22日(月)…土佐町保健福祉センター(上流域)
- 平成19年2月5日(月)…徳島県建設センター(下流域)

第2回 吉野川流域市町村長の意見を聴く会

吉野川流域市町村長の意見を聴く会『中流域』が、1月24日(水)美馬市福祉センターで開催されました。治水に関して、「できるだけ早く無堤地区の解消を」「5年、10年単位での目標を示してほしい」など、早期の無堤地区解消を望む声が多く上がりました。内水対策については、吉野川や支川などの排水ポンプ場の管理について、県、市などとも連携してほしいなどのご意見がありました。

四国地方整備局は、今後も広く、丁寧に流域住民の皆さんにご意見を伺った後、修正素案をさらに修正し、河川整備計画の策定を進めていくこととしています。

よりよい吉野川づくり吉野川水系河川整備計画については
<http://www.yoshinoriver.info>
これらの開催結果についても、ホームページにて、公開しております。

ふる〜ぶ編集後記

今月号の取材に出かけている途中、吉野川の堤防を、先生と一緒に走っている幼稚園児を見かけました。かぶっているカラフルな体育帽とあいて、可愛い様子は、心がほっとしました。(か)

野鳥の写真を撮影するのは難しい。ピントがずれるし、思うように相手は動いてくれない(当たり前ですが)もっとうまく撮影できるようにしたいと思いました。(や)

今月の表紙イラスト

〜吉野川ハイウェイオアシス西側 菜の花畑〜



写真提供: 東みよし町役場

平成12年のハイウェイオアシスの完成に伴い、オアシス西側の休耕田を有効活用して作られました。春は菜の花、秋にはコスモスなどが咲き、多くの観光客が訪れています。4月1日(日)には吉野川ハイウェイオアシスで11時〜17時まで桜まつりが開催され、有名連による阿波踊りや、アトラクションなど家族で楽しめるイベントが行われます。
問い合わせ: 東みよし町役場商工観光課
TEL: (0883) 79-5345



亥の干支・しおりプレゼント

佐藤潔さんが吉野川の竹を使って作った亥の干支竹細工を抽選で2名様に。そして、大川村の風工房のみなさんが作ったしおりと、どんぐりの根こをセットにして1名さまにプレゼントします。

ご希望の方は、「竹細工」か「風工房」を希望するか記載の上、お葉書または、FAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もおかきください。締切は3月30日(金)です。

プレゼント
応募先

〒771-1156
徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる〜ぶ編集部「竹細工」もしくは「風工房」プレゼント係

